さわやかさん

岡崎武治さん・植野

老人クラブのお世話をしたり、川柳や文章を書いたりといろんな活動を元気に続けており、以前市民賞をもらったことも。

川柳を作り始めたのは、六十を過ぎてからです。川柳以外にも、新聞などに投稿していますが、共感の手紙や電話があるのがうれしいですね。

老人クラブの花壇に絶やさず花を植えたり、毎朝散歩に出たりと、外に出て何かをすることが健康にいいんではないでしょうか。

これからもできる限り人に喜んでもらえることをしたいと思っています。

竹内花苗（かな）さん・大浦

今年5月に結婚式を挙げたばかりの花苗さん。今は主婦業に専念し、しっかりとご主人の留守を守っています。

私が主人の会社でバイトしてて、そこで声をかけられたのがきっかけかな!?

第一印象は「いい人そう」くらいだったんですが、主人いわく無償の笑顔にだんだん魅かれていき、「五十年後、隣側で一緒にお茶をすすろう」というプロポーズで結婚を決意。

不規則な仕事なので、健康に十分気をつけて、野菜を多くとるようにしたり、スタミナのつく料理をつくろうと、毎日心がけています。

戦後の解放運動・教育・行政がどのように行われたか⑰

同和教育シリーズ

国策樹立の運動①

オールロマンス事件をきっかけにして、行政の責任を追及していくという運動が、積極的に展開されていきました。

一九五五（昭和三十）年、部落解放全国委員会は、その名称を「部落解放同盟」と改め、名実ともに大衆運動団体として発展させていくことになりました。一九五六（昭和三一）年には部落の婦人たちが、その翌年には青年たちが全国集会を開いて立ち上がりました。

部落解放同盟は、部落の人びとの生活と経済基盤の安定をはかり、劣悪な環境を改善し、教育を高め、就業・就労の安定確保を要求して行政交渉に取り組んでいきました。

さらに、部落差別をなくすことは国民多数の生活と人権を守ることであると、平和と民主主義を進める他の民主団体と連帯し、民主主義運動の一翼も担っていきました。

部落内外での運動の輪は、次第に多くの人々に影響を与え、部落問題への理解が国民の様々な階層へと広がっていきました。

マスコミも、ようやく部落問題を取り上げだし、各政党も部落解放への政策を提示するようになっていきました。

こうした部落解放への国民世論の高まりを背景に、部落解放同盟は、積極的に同和行政を行おうとしなかった政府に対して、国会の場で、国として責任ある政策を確立するよう追及していきました。

そして、一九五七（昭和三二）年の国会予算委員会で、岸首相は、「この問題は過去の政治がつくり出したものであり、政治がつくりだしたものは政治の力で解決しなければならない」と確認し、「早急な解決のため審議会を設置する」ことを約束しました。

部落解放同盟は、部落解放を国民運動として展開しようという運動方針を立て、多くの政党、労働組合、民主団体に支えられ、地方自治体とともに国策樹立の運動を組織していきました。その出発が、一九五八（昭和三三）年の「部落解放国策樹立全国会議」の結成でした。

この会議で、内閣に審議会を設置すること、部落解放のための予算を計上することなどを含む要望を決議し、それを政府や各省へ提出しました。

その後も、国策樹立の請願書を提出したりして、政府各省に強く求めていきました。

その結果、政府も同和問題関係閣僚懇談会を開くなど、ようやく取り組む姿勢を見せるようになりました。

そして、一九六〇（昭和三五）年、国会で「同和対策審議会設置法案」が可決され、内閣総理大臣の諮問機関として「同和対策審議会」が設置されることになりました。